



柘植地域
まちづくりだより
 第160号

あなたの質問に答えます!

地元医師
紀平久和先生をお招きして:

健康福祉部会・健康の駅長
 つげ健康づくり実行委員会

1月23日(土)午後、市民センターで
 地元の紀平医師の紀平久和先生を講師
 に健康講演会を開催しました。

今回は事前に提出していただいた病
 気や健康に関する質問内容をもとに、
 日常生活において留意することなど、
 きめ細かくユーモアを交えてお話し
 いただきました。

当日は、他にも行事の多い日であつ
 たにもかかわらず、予想を超える70名
 余りが来場され、紀平先生のお人柄と
 相まって和やかで楽しくかつ熱心にお
 話しを聞かせていただくことができました。

冒頭、部会員の宮田隆司さん(上村
 区)から九死に一生を得た体験談をお

発行 柘植地域まちづくり協議会事務局
 (柘植地区市民センター内)

伊賀市柘植町一〇六四七番地

〒五一九一四〇二

電話 四五・八八八〇 FAX 四五・八八八三

発行日 二〇一六(平成二十八年)二月十五日(月)



話しいただきました。その後、紀平
 先生から静脈瘤、高血圧、コレステロ
 ール、無呼吸症候群、血小板にまつわ
 る病気、咳とアレルギー、血圧の薬の
 服用とお酒の量、シエネリック医薬品
 と一般医薬品のちがいが、薬の正しい服
 用のしかた、川崎病、脳動脈瘤と脳ド
 ックなどの多岐にわたる質問に、一つ
 一つ丁寧にお答えいただきました。

2015年9月末現在

高齢化率37.3%に
 なった柘植地域ですが、
 お一人でも多くの方に健
 康で長生きしていただく
 ために、部会としての取
 り組みを考えさせていた
 だくよい機会にもなりま
 した。(4ページに関連記事)

健やかに生きるために
 は、「簡素に暮らすこと、
 陽気に暮らすこと」が大
 切との言葉がたいへん印
 象に残りました。



時代の流れに遅れないように...

① マイナンバー研修



東近江市長あいさつ

③の研修会場にて



② 女と男の住民自治活動

③ 6市合同地域研修会

1月18日の滋賀県東近江市で開催された6市合同地域研修会には、市内の住民自治協がそろってバスで研修会場へ行きました。左記の5つの発表の後、I-HOE「人と組織と地球のための国際研究所」代表の川北秀人さんから講話をいただきました。

- 発表
- ① 伊賀市・桐ヶ丘地区
 - ② 名張市・錦生地域
 - ③ 朝来市・与布土地域
 - ④ 雲南市・三刀屋地区
 - ⑤ 東近江市・愛東地区

制度の導入目的
 社会保障・税・災害対策の3分野
 について、分野横断的な共通番号
 の導入により、確実かつ迅速な個人
 の特定が可能
 制度の具体的メリット

① 行政の効率化
 ② 行政手続きで添付書類を削減
 ③ 正確な所得把握↓公平公正社会実現

伊賀市では、市内の住民自治協議会（まちづくり協議会）を対象に、時代の変化に対応し住民自治が進むように様々な研修が企画されています。私たちの協議会でも、これまで独自に研修を開催してきましたが、最近はその地域づくり推進課が中心になって、住民自治充実に向けて本腰を入れてきたかの感があります。

1月12日のマイナンバー研修では、その制度概要とまち協組織が運用に使用するための手ほどきを受けました。

2月10日の研修では、地域課題解決に向けた組織運営等や女性参画の促進を考えることがテーマで、元尼崎市長でグンゼ株式会社取締役の白井文さんが「お互いをもっと活かそう!」というテーマでお話をいただきました。

いままでは世間一般に性別役割分担の「刷り込み」がされていました。しかしこれからは、性別に関係なく、得意分野で様々な場を与えられて経験を積み、適材適所で仕事ができる時代。

磨けば光る人材を発掘することが急務です。たとえば自主防災にはスタッフとして女性が必ず入り、女性の視点から防災グッズの見直し等をすることが必要であるなどのお話しをしていただきました。



講話では、小規模多機能自治を進め、組織を進化させるためには、「イベントが増えるだけ」とならないようにすること、時代に柔軟に対応できるように組織体制の見直しを規約で定めておくこと、よいこと、いまある空家や人材を有効に使うアイデアを掘り起こしたり、地域内でのエネルギーや食糧の自給など新しい分野にも視野を拡げたりすることが大切であること、などの話題提供がありました。

鈴鹿市の戦争遺跡をめぐる

フィールドワーク報告

人権同和部会

11月29日(日)、部会員を対象に鈴鹿市方面へのフィールドワークを実施しました。当日は鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会の浅尾悟さんに案内していただきました。



※別紙にて配布の人権同和部会だより『さあ、みんなで、考えよう』に、左記項目などが詳しく掲載されています。

- ① 「軍都」鈴鹿市の誕生
- ② 鈴鹿海軍航空隊跡
- ③ 鈴鹿海軍工廠^{※1}
- ③ 北伊勢陸軍飛行場掩体^{※2}
- ④ 鈴鹿海軍工廠 関地下工場跡

※1 海軍工廠(かいぐんこうしょう) 海軍が直接運営する軍需工場で全国に13か所あった。

※2 掩体(あんだい) 飛行場周辺に空襲の被害から逃れるために機体を隠す施設。



人権講演会

「ここに生まれてきてよかった」

人権同和部会

1月27日(水)夜、柘植地区市民センターで人権講演会を行いました。



講師の土田光子さんから、大阪のあるK中学校での数々の差別落書きに出会った子どもたちの様子と、そこからの子どもたちの気づき、立ち上がり、つながり、自分のことを見つめて語ることで自己解放していく姿をお話していただきました。

「差別落書き」は消したら終わりですか？差別は誰がなくしていくのですか？どのようにつながるのであるのか？子どもたちの姿を鏡にして大人たちは学ぶことはないですか？など私たち一人ひとりに問いかけていただきました。

※詳細は、フィールドワークと同様、別紙『さあ、みんなで、考えよう』をご覧ください。

解放文化祭に市内外より300名越す見学者

2月11日(祝・木)午前、いがまち人権センターで、伊賀市副市長、教育長、伊賀支所長、解放同盟前川支部長、いがまちの各区区長等を来賓に迎え、盛大に開催されました。

保・小・中・高の子どもたちや親の人権活動の発表が舞台狭しと次々に繰り広げられました。



各区での懇談を深めるために、**【人権問題に関する市民意識調査】**の概要が市より報告されました

2月1日(月)夜、市民センターで人権同和問題地区別懇談会事業最終報告会(柘植地域会議)が開かれました。市からの説明ならびに各区・小中学校から今年度の活動が報告されお互いの交流を深めました。





伊賀市誕生以来、試行錯誤をしながら、「地域の自家用農産物の活用」、「高齢者の生きがい」、「遊休農地の活用」を目的に活力ある元気なまちづくりをめざされている様子がわかりました。年間来客数は約一万人、年間売上が一千万円を超えることもあるそうです。



伊賀市古山「うらの丘」を見学

特産物創出実行委員会

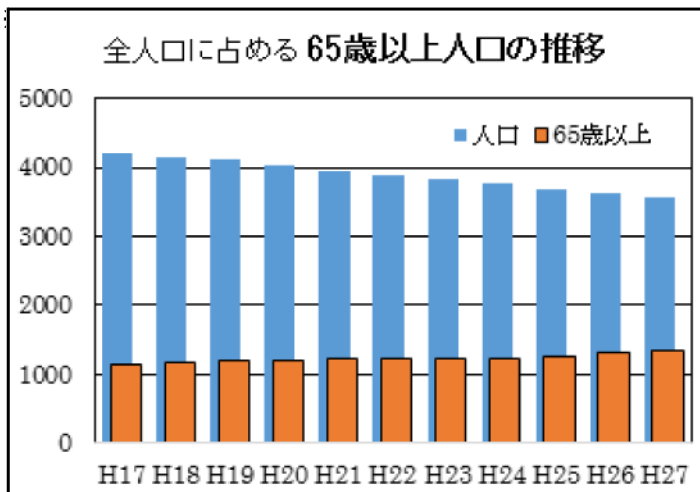
1月31日(日)午前、特産物創出実行委員会のメンバーを中心に10名が名張街道沿いにある農産物直売所「うらの丘」を見学し、古山地区住民自治協議会産業部の代表の方から詳しい説明を古山地区市民センターでうかがいました。

柘植地域としても、今後、「黒豆」を活用しながら、地産地消のサイクルを回させる地域をめざしていきたくていいます。

柘植地域高齢化率、10年間で

1 関連記事 **27.1%から37.3%に!**

高齢化率：高齢者人口（65歳以上人口）が総人口に占める割合をいう。



特産くろまめ(伊賀のつけまる) 平成27年産の最終選別

2月9日(火)午前、約15人が市民センターの和室に集まり、残っていた黒豆をAクラス品Bクラス品に分ける作業をしました。分けたものを使って業者と協力して商品開発を進めています。



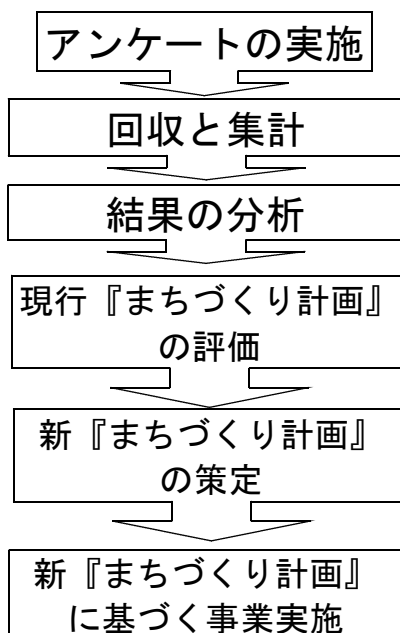
住民アンケート集計中です

事務局だより

先日、住民のみなさまにお願いしました「まちづくりアンケート」が事務局に戻ってきました(約1500枚・回収率約50%)。年末年始のご多用の中、ご回答いただきありがとうございます。結果は整理でき次第、「まちづくりだより」においても紹介していく予定です。

今後のスケジュール

回収いたしましたアンケートは、今後の次の流れで、柘植地域のまちづくりに活かしていくこととなります。



ちなみに「まちづくり計画」は、伊賀市や三重県行政との協議を進める際には、たいへん重要なものであり、地域の将来を左右するものです。これから部会・運営委員会等を通じて改定作業が本格化します。随時、様々な形で意見をいただくことになろうと思います。住民のみなさまの格別のご理解ご協力をお願いします。(西田方計)

